

岩手県立大学生対象「震災遺構や震災当時の体験談を通じた現地学修ならではの学びを得る」のテーマとした現地学修を行いました。

2025年11月1日・2日開催

キーワード：防災教育

開催場所：宮城県石巻市、気仙沼市

岩手県立大学防災復興支援センターでは、人材育成の一環として、本学学生を対象に「震災遺構や震災当時の体験談を通じた現地学修ならではの学びを得る」をテーマに現地学修を開催しました。本取組は毎年行われており、今年度は学生団体F ROMメンバー28名を含む31名の学生が参加しました。二日間にわたり、宮城県石巻市の震災遺構である大川小学校、門脇小学校、伝承交流施設 MEET 門脇、さらに南三陸復興祈念公園や気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館を訪れました。

初日は石巻市の大川小学校と門脇小学校を訪問しました。大川小学校では、震災で子どもを亡くされた遺族の方が語り部となり、当時の状況や震災後数年間に及ぶ訴訟について説明してくださいました。続いて門脇小学校では、東北大学で伝承活動に取り組む学生がガイドを務め、実際の被災体験や震災後の現実について語っていただきました。遺族の方のお話や語り部ガイドによる説明は、より具体的な状況を知ることができる貴重な機会となりました。その後、福島大学、東北福祉大学、東北大学、石巻専修大学、石巻好文館高校の学生と交流会を行い、「なぜ防災活動に取り組むのか」「防災活動の価値」「学生だからこそできること」といったテーマについてグループワークを実施しました。

二日目は南三陸復興祈念公園を訪れ、被災した防災対策庁舎や犠牲者の名簿を納める「名簿安置の碑」、南三陸町東日本大震災伝承館南三陸311メモリアルを見学しました。さらに気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館では、震災による地震と津波の爪痕を当時のまま残す旧気仙沼向洋高校校舎を、語り部ガイドの説明を受けながら見学しました。

二日間にわたる現地学修を通じて、参加学生は遺族や語り部の方々から具体的な状況を知り、深い学びを得ることができました。また、岩手県以外の被災地を初めて訪れることで、広い視野から防災を考える機会となりました。岩手県立大学防災復興支援センターは、今後も地域の防災リーダー育成に取り組み、次世代を担う人材の育成を進めてまいります。



大川小学校で語り部ガイドの様子



門脇小学校の語り部ガイドの様子



門脇小学校にて学生間での意見交換会の様子



南三陸復興記念公園見学の様子



気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館での様子



参加した学生の集合写真（1960年チリ地震津波をきっかけにチリから送られたモアイ像と、東日本大震災津波を受けて再び送られたモアイ像の前で）